

# 飼料用トウモロコシ栽培において 交換性カリ含量が低いほ場では土壌改良が必要

福島県農業総合センター 生産環境部 福島市駐在

事業名 福島県営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付実証(県による実証研究)

研究課題名 交換性カリ含量の異なるほ場における飼料用トウモロコシの放射性セシウム濃度

担当者 根本 知明

## I 実証技術の解説

### 1 要旨

避難指示区域において、県が地域の協力のもと営農再開を希望する現地ほ場において既存研究成果等を活用した実証栽培を行い、農業者の営農再開に対する不安を払拭するとともに、地域の営農再開を進める。

飼料用トウモロコシを栽培する際、土壌中の交換性カリ含量が低いほ場では放射性セシウム吸収抑制対策として堆肥等による土壌改良が必要である。

- (1) 飼料用トウモロコシの放射性セシウム濃度は、土壌中の交換性カリ含量が 50mg/100g 乾土以上のほ場で生産者団体の定めた自主基準値 30Bq/kg より低く、カリ含量が 20mg/100g 乾土以下のほ場では高かった(図1)。

### 2 期待される効果

- (1) 今後の飼料用トウモロコシ栽培を行う際の参考資料となる。

### 3 活用上の留意点

- (1) 震災以降は、未除染、未耕起ほ場での実証結果である。
- (2) 土壌中の放射性セシウム濃度は、1,020Bq/kg～2,800Bq/kg・乾土だった。
- (3) 飼料用トウモロコシを土壌中の交換性カリ含量が低いほ場で栽培する場合、生産者団体の定めた自主基準値 30Bq/kg を超える可能性があるため、栽培前に土壌分析と土壌改良を行う必要がある。

## Ⅱ 具体的データ等

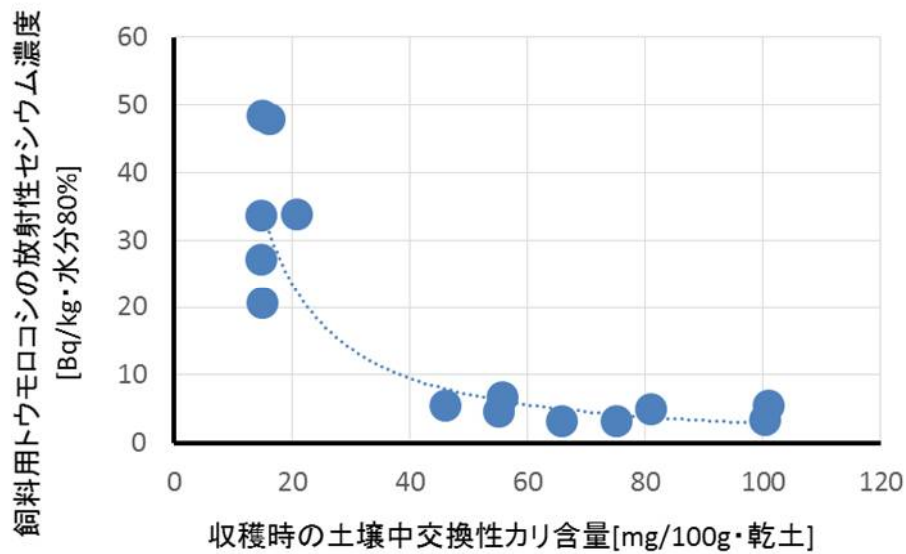


図1 土壌中の交換性カリ含量と飼料用トウモロコシの放射性セシウム濃度

注1)施肥は基肥に尿素 20kg/10a、追肥に尿素 10kg/10a とした。

注2)複数の大区画ほ場内の交換性カリ含量が異なるほ場で試料を採取した。

1 執筆者 根本 知明

2 実施期間 平成 26 年度

3 活用した技術のポイント(参考文献・資料等)

(1) 飼料用トウモロコシへの放射性セシウムの移行抑制技術(堆肥、カリ)

(平成 25 年度 放射線関連支援技術情報)